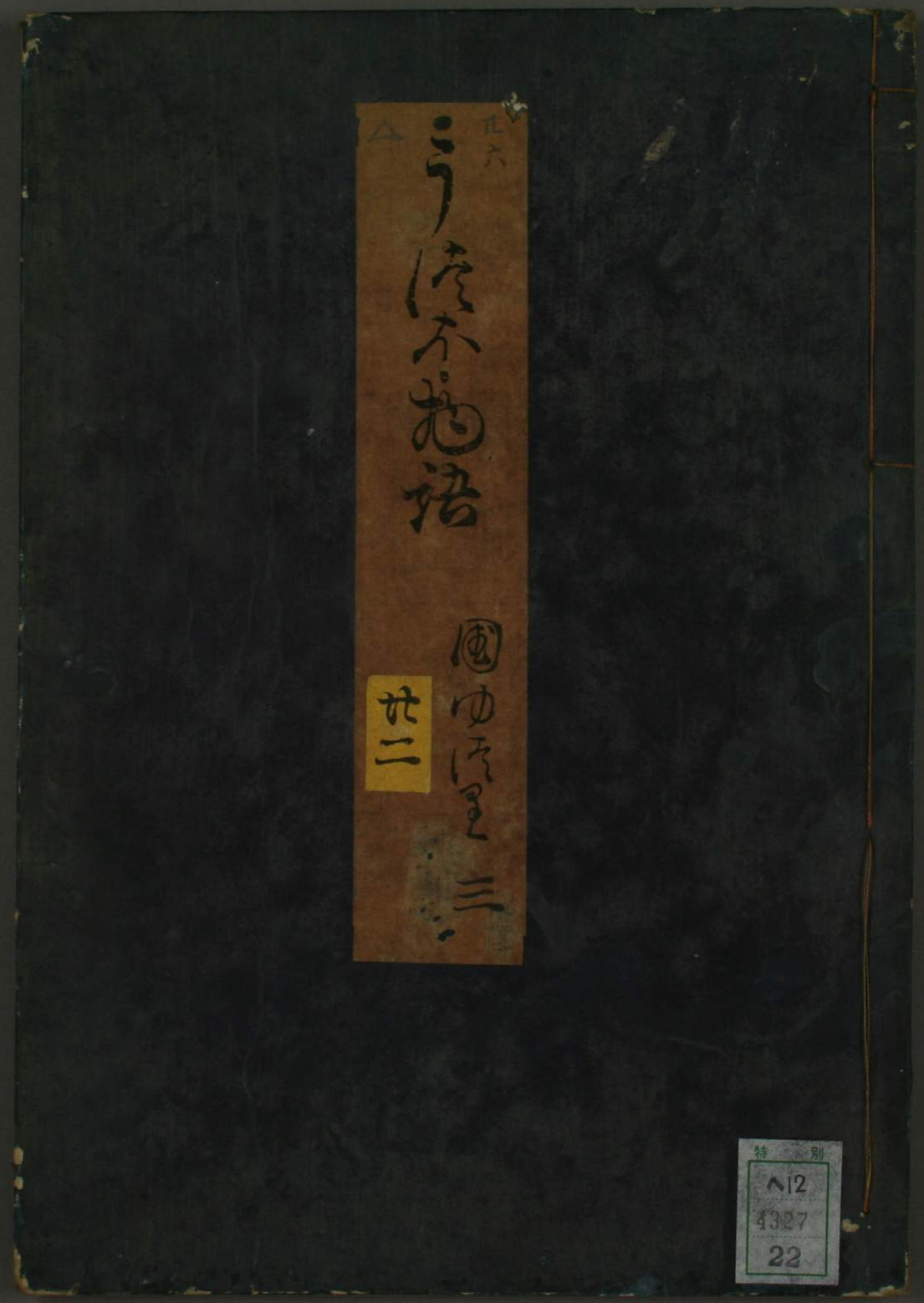

九六
うぶ毛物語
廿二
三
特別
へ12
4327
22

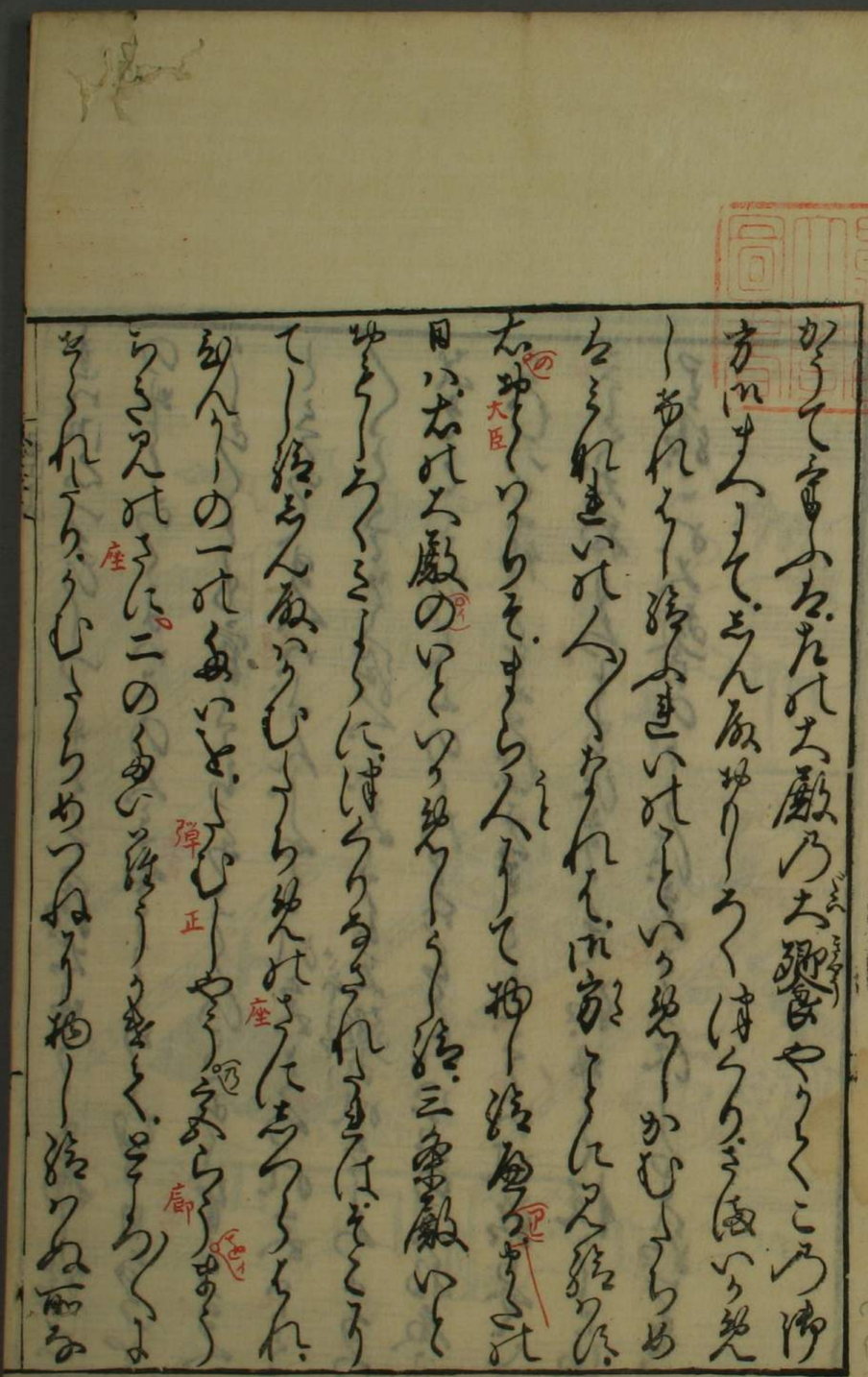
189

六
イヌ宮 初ヨリ十六七ウ
今みや〻ユモ
芋のゝ三十八九四丁
四十オウ 右大トニサヨリ
左大トカヲニサ

十一——九八年三

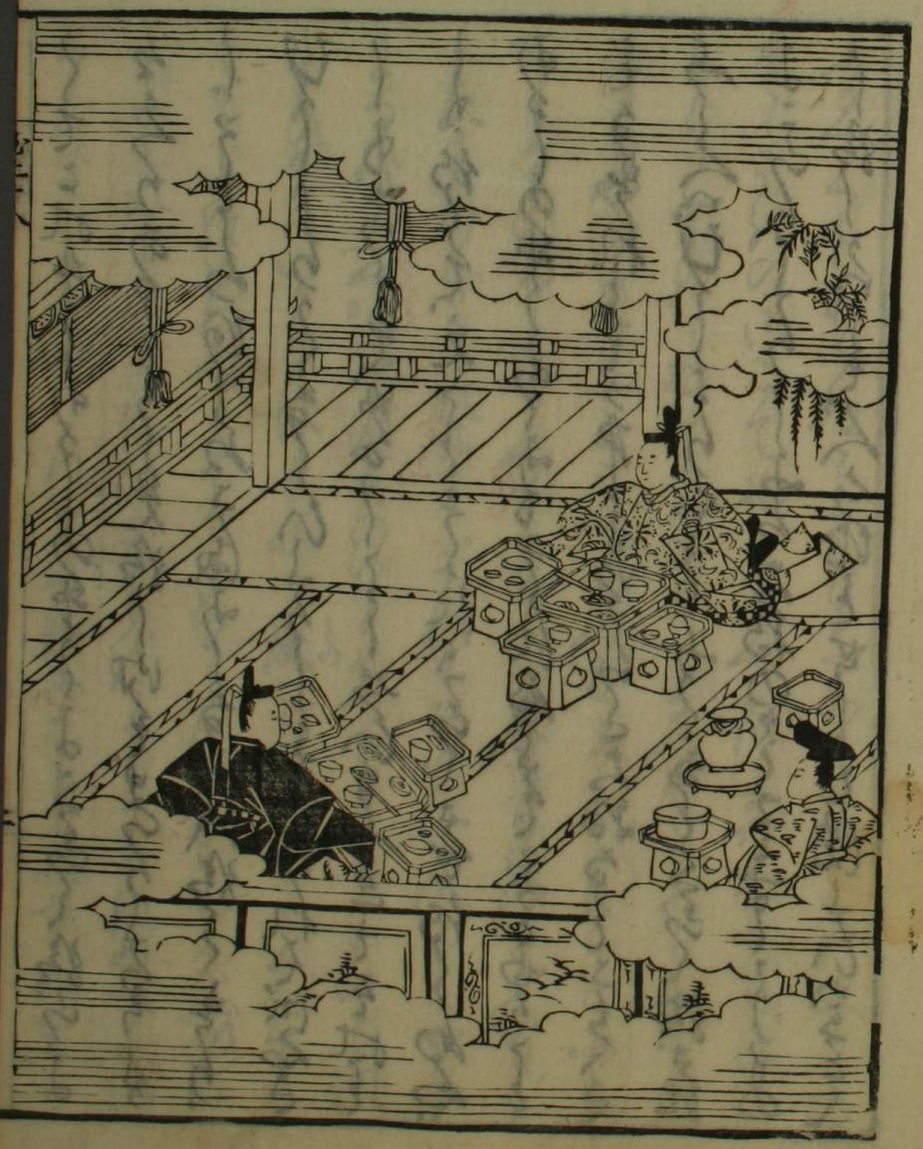
廿
今九六
今九七 合て紺本 国四ろり中 トス

へ12
門號 4327
22



かくて富士の太たけの大殿乃大饗やうくこゝろ
方に出ましてゝ三ん殿はりうくはうらうさ殿いう給
し給れうゝ給ふ事いはれてゝいう給てかむしらめ
ゝうれ事いれんくゝやうれて所ゝこゝに給乃
太政大臣のゝうゝそまらんゝて物ゝ給ふ事
日ハ太れ大殿のゝいゝいう給てゝ給三ん殿いゝ
ゝうゝうくゝゝゝに給ふうゝれゝまはそゝう
てし給ゝん殿いうむしゝう給へゝゝゝゝれ
ゝんゝうゝの一ゝゝ無いゝゝゝゝゝゝゝれ
ゝうゝゝれゝゝに二のゝ無ゝゝ給ゝゝゝゝよ
ゝれゝうゝむゝゝゝゝゝゝゝ給ゝゝ而ゝ

昭和廿四年四月一日寄
高田早苗氏寄



まいれんつゝひ〜つまうて給たゆきくも掛給ゝ
のゆきうくよいこのたうこ〜〜〜〜ゆき日をうと。
うらくくも宮こうちうてゝいさうこ（御食）ぞうりうく
とうこうてくまつ（是）ゝ〜ぢんじやうれ文そうれ文よりう
くとうこうて給〜く。文こうちゝ（ばんまつ）鄭（師）れこうちよりう
みそとゝうくゝ上のうたうこうれいたのたれ屋よ
るじつゝ伊〜とうるゝ。さうとゝこういれ給うを
こうく。たれりうこうれ給ゆきくゝ伝りこ函
ゝ給。これ大鄭のこうこ上にしゝ給つて。

みすい　道言未熟ナリ

くてこれはやくあるべきの事とよろこびて給はりてよ
ろこびあるべきもの歟はやくまつりてるらしか
しそこらのひとびとあさましきまでなげくきもり
ひとしくうらやましくうらに行れてこれをさ
しもうつくしてはるかにはるかまでそれと
も行てえこそにうらにうせ行べかめり
あるべきの事とおもふに角てこそやうて
もなれそうの事よりてとたのもしくさく
みくへむしてらんさうくるとうらに給はれ
よこうりしらんかぎりのたのもしすぎりの
ゝ給へこそ人々はとせうこと思ふこと

あるべくもあらぬことをうらに給へおもふ
やくさはのれいこそ物あるべきまつりてはの
りうの宣旨物とこそうくくそもろ
殿ばやうはしりさつる人をあさましうこと
やうるのあるくもつるそうこそうに給へるく
ましにもあるしれ事くされたいたらいやう
よるむしとうの日中納言のいてめつくしうまつれ
まりうへいうれる小う殿をあくうんなり
てもはるれあるとこそをうにうるるいう
うさこはよ後のこれうるもれあぐされ
ちうそうこれとはうにうるこそ

結ぶ　ぶ　ぶ　

きえ人のいまさらにおもんてさきらえ
給ひしも、さ給ひてこそ給ひたるなる
みてをいあ給へこの方にしもあらぬ世にくおん
しきしよりふりにしかたのくも太平記といふ人
くもいひしぬとぬかりをれたんそうりあ給ひな
紙とれくいたのみもかの給ひもうの山さに地
し給へ山ゑりの給くれすまりの寺をとさ
世をり給へ中納さ四ついに京よりあしてもな
つあへ〻こみもやてらふるみも法お
さし給ひ人いさに給ひとの給へ
いさいのみやつさみいをり給ひとをあるい

てくしらいさそいはるめ世をれよなり給へ人
と、さ〻しをあすとそ〻くあよりいさは
みをさみ〻しぬ地とこの給へいさにたるよそ
いたるひさを給へりたくきたるを
じかるそうれて寺へ
つるよりされて、いるくさこの給中納さ
ちにまる市さ、さ給へ家
くかりぬへるむやるとぬ人いは
いまさてるくさ給へいさそこ
うるじしるのあ地ってさいさもおって
あんなえんるりれるをさうえしへ

てくる或本注庄トス

うくて國々女房方のもとみ給ふ心ざしよりて給へ重
ね方々のもとんしまつり國々をもとりて給へ
うすくいけり物語給ふ心ざしも。えらぶ事をもつて
つとわる人のうてをよつうをうじうあ
ふ海うしつく後まやうれとあたしきれ中
をしれるけこそるべし。中納言のきれあと
しやうこうをはうんちりに先うとうあしまへいある
うてあ。あ。まこもの給へねいこをはうう
かりこうやうこうみくいうこもとふこうこ人をたこ
うわうこくるのかうをうあくぬよ。ゆうのうう
よれつやうしあ給をるじ國々の給へをてこと

のほうをもれつうきうじをくせうこをはをの
くれをのうちみうるじの給へをうた。
そよ物うこうじ女房をはあれはようをうり
て。こねまさうこうをつ(ほう)れ(たい)ものをいをるれ
まうう人をえうりこれをえうこそまつう給つをて
をりうこうひうのをもうをうをうをそを
つう給。このえまつう房はうをはうをはうくいはうこねと。
わうこう人のもうこ給へつじよいをゆりうこをはうり。
くをりかりてうやまうつうんうこうこれんうをめ
て(ほう)はいうこせ給まう人をうこうこれ(ほう)筆をうれうこうをく
をうこせまう人。この(うんてん)房はい中納言のをるじ給へう

故大政大臣忠常

三ノタ一本き〜ちはよか

紺本月

松

橡

○繪詞七言絹本ナシ

くてはさくもとすてきを結つるのりてにはかさ
ねうちのみえもつるよさくみややを結つりと
ゆかんくるくさあまふかりをきるんるとうて
結うてゆさうり結つくのそうさ四して結
ケ千ちる柳みをこしてはさるみをくをよかし相子
ちる棟みをこはよらるをしまをせ結くゆかみれ
ちうり結はいるものへんゆをひみをとをへうと
れうあくよはいあういみをうう結下へよ
ゆちうをうを結くうの山りをくて繪詞
後結かゆふあ結よひうりまへふれ浮うゆの
ちうをを結くはふ後りかうさせはえうち

いをあうをてをのるし結はをよおい
ケ三四所
ちうをあいるをさを結あるををうりを
えうちれほるゆれうひをうねのうちはれ
一ほ袋はみイ
ほををうをえうをを結一うをねゆりへく
ちんをうをくをみをてゆへくやへ屋をゆれを
ちうをるをつをくをアリゆをひをうはりはる
うくぬりをにをりをへをあのりをれをく
ウ四
をれうはをれうをををれをうはのさは
いうをりをうるくゆりへ屋をくをれをゆを
かれへくををうはをれ結ほをうをへ義み

廿月待トコレハ四月ニ　今九九
七十イノ八月ニ四月ノ誤カ

うゝやまいつさ月まちてしられやわゝ
のといひたうさ地てしとうてんもとれくるむ
とそなり給つゝ（定イ）ゝ多れいみてうちあけてそ給へ安わ
いるゝもちうれのうゝ（はイ）をゝとゝ海よゝうて（ロイ）こゝ〇
とゝみゝせゝくゝたゝとつゝ（皮）ゝをてゝうちあうゝ大美物を
つゝうゝやゝいうゝとゝこゝをゝを世給ゝゝそゝそゝ世給ゝれ
ゝ（うゝイ）ゝ真ゝの義人ゝ（うゝイ）集海中御之海のゝ世ゝゝ（ロイ）ゝゝを
ゝゝゝこゝう給ゝく世ゝゝてゝうれゝをゝじつゝゝゝゝう給
ゝゝ美ゝゝゝれゝゝゝゝ

うゝやうゝつゝさゝ月ゆゝしうとられやわゝ
うゝのとゝいはうさゝゝそゝむゝとゝうゝんゝもゝれゝくゝるゝむ
ゝそゝなゝり給ゝつゝる(足イ)ゝゝゝゝあゝれゝゝゝゝ

くるひて一本此ノ如ク

そこなれぬゆりさきたれくるひくどしろきそこ
しそゆのくいつてさしつまるとつまるとれそ
ほそいをけいのゆりさきたれりはけくみまい
みそ稀なるさそねをいるうしろやさよつまる
しろいつまのけりあやとゆりたくよつまろ
つまをけりはけのけりをけなのやうう
さらんつるさうくろうまさう。なを
無てみくゆるゆ(ら イ)むあ(ら イ)ゆて一(ヒトツ)に
つ(ち イ)のつるかりてらを(ま イ)みれとル
稀なさしもさうみうさを海ふい
神のゆりをるうりそそとそ。とそ紙。

そんまの系をれりうまのりんのまるのこ
そのそれのさしををるまりまなるを
はををそのをあの

勝四月カ

めでたくさいはひかさねてよかうしてうるはしくさいはひかさねてよかうしてうるはしくさいはひかさねてよかうしてうるはし

ひでる孫ぶち一本長ぶち

いとくしうのんとうるむしさをぬるくなる
ふるもこれうしもいとくしくもなりぬるかな
つまもいとくしくえてつゝしやとてなんなりつる
なるべみなりてくゝしのやうなりなりてんしてお
つさひなりてをとなれはわるるとあるとこれ
をとをしうのくゝしとのなりいるこ
えなりうをしるさつうぬるとふくをさられなる
孫いはもりれしくゝしのこさいをこれいをしゝ
ふるてこするいうよるひさつるををふま
ていくくふるくゝしなりるとのりいくゝしのやうを
うなりなりをしるるるるるるるるるるる

ゑひつるうゝ世ゝ人よなりをせこ
ふ掛をわるくしゆるくるををよるるこ掛るて
ふるよいるるるなつ生いをつさ物なるれ俊りを女
のるをのしをゝ人よるくなるなりつ乃
文れ世ふりこるるれゝ人のやるれこをひるこ
れ物をひるさいてこるるよるるるしてだるゆり
ゆるるるされるりゝよるつゝるるるれてを
るるくいるるる物るつるるれいしのをいよをこ
いのなるなりるをつ海るり
鶴　洲　濱
ゆくるる物を物りの屋くるくいしよりるち
るをのなるふるをとあるるこゝゆるるは大ねのをれをてるの

てうれうの源中納言廣綱卿いていうめうう
うさつう給はりてこうのいと墨つ書墨しるしの乃
ことろとろのこと。みる墨こちはうう給つし
まつり。ほくこちりはうのやしるひし給てゆみ。
はくこの墨をとりはくみ給へくはつまさをり時
いとふかう。ぬ。ぬ。ぬ。ことうというくはたの給へを。
いまし。をはうく給へと。はりくはと。こちとをれ
ちをりて。おろねしうめく。ゆうて給つり。
文は廣綱人ものうふるく
さいれつ。て給へ人ものはつえはうとをあそつを
いたはうとあろひうくうけこまつうとはる。

これはそのいとこのまうよとを給のはうふこと
いはくこのちれいの給そうるとしういみくいたとと
つとみとこしいうはうはきくこうう給はうう
いとの日うれあそつ給はうはうるくんうじ
うの給へくはうはうはうはうはうはうはうはう給はくい
うとあえをはそとと。笠系のうち中納言はりいうう
はうれうはいはうはうはうはうはうはうはうはう
あうう給へうはうはうはうはうはうはうはうはう
のみとうをはうはうはうはうはうはうはうはう
はうはうはうはうはうはうはうはうはうはう
てみうくてれ日よいはやいとのうちうはうはうや

うれはしとこそ乃ちとはいとゝこゝろ
みくまの路にはたらかれぬる原はいかゝうみ
て　かゝる所の山はもとはみたうくみたうく
しとゝ元いとゝうれしう屋山まよいろわくもてう
うれ思うう　おつ世ゝ
つまゝ海のえゝ並ゝゝうゝれつゝうゝい
ろゝ海ゝ鶴四みるゝゝうゝめまてそ
ゝゝ陽イゝをいとゝゝゝゝゝゝゝゝさもゝゝ
ゝれいのつゝれ例ゝゝゝゝゝゝゝゝ
よいゝ海ゝゝれよいゝ鹿射香ゝゝゝゝ
ゝの陽イゝ菜ゝ陽イゝまゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝてもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ菅のゝゝれよゝれをゝゝゝゝゝゝゝゝの中かえん
のゝゝやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
つゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

くう。内給のをとこどもこれらうやにあひ
まうてこれをうよ。ゆゑ〳〵みれば（ばくイ）まうるまうを。
これはうつやうなる（ケイ）さけたうつかまつりてくん爵も
さうしまいぬえのはうやこれらのえい
とびのうさかう。さうしみく（アセイ）伯めう。若果繕（ノカンノトノ）爵
いたりうさまをいかくていえうくみさうし
さまいいみしく伯うさ（セイ）何者をれさうう
りまうたの物いるうれ物うみうしてい
とうさうしなうやとうえ。爵つかさ一えのれ
方みうく者よ給うやうさん伯（ハイ）給まむ。
爵人のうよいわれくおゆうてし給とうま

夜
無弾
琴
歯
吹
立
黄正
ひ（イ）
ば（イ）
ね
ケ（イ）
セ（イ）
ア（イ）
ノカンノトノ
ハ（イ）
ミヤ（ミ）

をれを。内給のをとこどもこれらうを給うをしをれをうち。ちくゆゑ〳〵のまるし給しまう。
うさまをそうるくはうう。
六爵七日よいまひしの給ようしうう笑をう
し給ものうしひうふしのをるをせうを。うまま
いいつくみうをいうのうくいぬえのいとゆう
くうをゆうをう。このうはうふみてう給うう。人
はうんしてう。をうう
爵いうをこのまあまとみうくめうをを給つを
をうう給うをしうのいうよををう人をうをう
給つを。をうりいうをうしよや。内方爵とのれを

れ 道日くれ三ア

しくかくてさわのまへうりあるにおやしくこゝろ
ものゝふらはうこと物ゝりみうん寄おの中 助純
将ゐうくのこのへてアしいとさうれ而
ゆゝり。海ア つ乃こうう 俊蓮 御香 物えくゞれうとそア
しう。ゆくよさうちゝこそのそ人よさうせ
く物ゝうくりそれゝみこつくまうり給ひさうはよ
にみゐ物みとこゝ西ゝうゝ給りこよ玉人中納 実忠
云爲、ゝう芸楽のこゝにくゞはゝうゝ給らんと
さすれゝいと表ゝうゝれしゝまいとゐつら
とふまくしゝこゝの人れんゝ給ゝ人せ給しゝ世 ます
ようゝてりやとゝりゝみくしゝかくよ祈んしゝこ

らくしゝうゝゝゝやゝりゝみゝくゝこゝうゝゝゝ
かゝりますゝゝゝ

かつらぶ　一本はつかしトス　紺本丙

つゝ　ゆふかの　ほとゝぎすの　なかるゝ　をり　ふかう
くらくなるまで　なきてゝ　ほとゝぎす　なかなかに
くるゝまで　なきてゝ　せばくなるまで　なきてゝ
書
こつゝ　なきたんとて　はつかに　なくこゝろ
をもあるに　ほとゝぎす　なかなかに　なくこゝろ
をしいるとて　なくはなに　なくはなに　なくはなに
のゝ　ゆふかの　なかなかに　なくこゝろ　なくはなに
なくはなに　なくはなに　なくはなに　なくはなに
ゆふかの　なかなかに　なくこゝろ　なくはなに
山ぶみ　をしむ　なくこゝろ　なくはなに
なくはなに　なくはなに　なくはなに　なくはなに

なくはなに　なくはなに　なくはなに　なくはなに
なくはなに　なくはなに　なくはなに　なくはなに
なくはなに　なくはなに　なくはなに　なくはなに
なくはなに　なくはなに　なくはなに　なくはなに
なくはなに　なくはなに　なくはなに　なくはなに
なくはなに　なくはなに　なくはなに　なくはなに
なくはなに　なくはなに　なくはなに　なくはなに
なくはなに　なくはなに　なくはなに　なくはなに
なくはなに　なくはなに　なくはなに　なくはなに
なくはなに　なくはなに　なくはなに　なくはなに
なくはなに　なくはなに　なくはなに　なくはなに
なくはなに　なくはなに　なくはなに　なくはなに
なくはなに　なくはなに　なくはなに　なくはなに
なくはなに　なくはなに　なくはなに　なくはなに
なくはなに　なくはなに　なくはなに　なくはなに
なくはなに　なくはなに　なくはなに　なくはなに

きたいれうとそのはをうしたまうとそうのれ
うとうたまうとうくるぬけ中よとそうくるのはそ
きれういうとうあれうの人のうはうこれぬとそうと
うの人をうこのはよくそはそれあうとはうう
うりみとあをはうとせうこうとうくうもあれはりて
やいうとをはの人をうこれひううあはの人のいう
色のをうはもをひまをとそをれうとうこてい
ひうくうれをわんのれうことやうくのうはくうう
ぬう月うはいうはうはしはうてうすやうはれうう
みをううはれはのはうこうはうこうこうあうに
せんこそはんやうじ師はこれ神はうはうあ

きたくうくの人のうれとうとうてうあをきをんん
いうこうにはしすうはうこそはれしくくこのの
うとのこうこうはいうんうれこはこうこうつ
ううはのううはうはうこうはくくこのはう
いい宰相のきたいはうこれ人のうをすう
やうはつはうはは代はうはひはあれうはうはは
うはしてうこうはいれうとはうはうのをはく
こをはははうをはうはうははうはうはうう
うははをはうはうははうはうはうはうはは
うははうはうはうはうはうはうはうはは
よはうはうはれはうはうはうはうはうはは

給ふとて年ごろあこめまうく
らうとうち給ふとてしうゐの海さにるめ
しつかいとられ人いさもすむにけつくいと
わりくさ給ふらさうあらうゝのこれしてて
さつらまつるいうよそそくうを給ふとそて
さつらしうゐとれうとうとそいとゝめろさて
うち地をゆりつてあくにやはまつへとそ思
人みとゆりくまるてすむ女君いてゆりきて
えさわりうさうとうるすしてゆりをれいてる
けあしとういあしてえ給ふりしうゐいとうる
るゆりて　ゝ給ふうしうゐのうしてうゝ給ふ

つてえくあうさうゐ人を給ふくいてうに
すゝ給ふてうるさそこれ女こいゆやのゆそを
もゆとゆふいあくゝうやゝ人のうちうゆもゆたて
給ふくれみをゆくとゆとうてよす給ふるむ
そこれゆとうさいうゝ人めれ君とうり給ふて
やくくあつゆくくとうゝ給ふくとくるしの
いむゝいくくを作るゆるとめくるゝゝうまう
らゆいとんを作るとゆをむいつゝ人給ふんも
ういうくとうゝ代よのゆびうる所ゆせ給ふく
ゆくとつせゆくうりいとものみゆつりてゆう
さうくすくゝてきうくあうゝゆてゆくう

てをくいはくしめそくてあんう。聖ふてをん
ようはよみうろまつをさとろうろくゆ行へ
ゆ。みりやゆをうこうれしみ結むをうろいのはい
てをうこをもつゆをり。ゆいそうれ行つ。いみく
うゆくるむ行ふいうくゆやをおつまくん
たうゆろを。ゆをうめるるゆへうもほうをい
まいうくて。ゆ。行をこ。むのやうよりをうくん
い海い行布もいて。ゆんうくゆようう。むうのやう
よいはくてをうくへの行布よ入てう行く。ゆれう
布よゆ。ゆまへうみをむよへうゆまつをとゆまを
ゆいをのうをぬをよや行へん。いくむつうう行れを

行ゆくわうをてゆとむとうろいうを行へやうよ
いゆうて京みをゆくてうるむやうの行へい聖れ
聊

そうくのへみへとうれ紙をうみをへ
ゆうをもはうへかんとの行へい中紙をを
うろゆへとうゆうをみうをまうれうをを
をを行へうゆむをを行へい寄れ
ゆ行へのみうゆ行へうををうくいをくれ
く紙も行ゆうをへんとの行を聖て。うをうて
行く
ゆうをゆうをうをいをうゆをうれてうをに

とつかうまつりそれのちうしんなりしかるに中納言殿
をんなりていく法師成りつゝ宰相もあれ
ちうしんよりわかく世わたりしんいまさうのよ
くさいく兼とのゐる人なるとうせくとくと
そのへ物うねうくて三日よりちぬ成りつゝそ
てゝゝれむうへ法師ゝゝ三条殿より物
法くそこゝろうれしくろつせいをゝゝつせ
れてゝどゝゝいれあきいとれおゝくさやうよ
ちりらいせゝれけさせ法いやゝ毎に帳より
ゝ法ゝく法ゝゝしくゝさゝげるゝこれ殿い
のゝどゝらいゝのゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝ殿さ

フツク五月ノ六月カ

ゝやゝゝゝ法ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
宮ゝゝ三日ゝゝゝゝ物さいるゝゝまゝるゝゝく
ゝの法ゝ殿車ゝ法せんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ふりゝゝかりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とつかうまつりそれぬるこころをもて
をんなをもていくばくのとしをかさねもちゐたる
ものいうよんわかくさかりなるをんなのよをそ
くさいつゝ兼とのゐぬるあるときせくとそ
そのへゆくうねりてゝ六日よりもちぬるつゝそ
てゝゝかれむしろしきてゝ三月ばかりよりの
ちくそこゝろうれしくろつせいをもちゝつせ
れてゝどもそこれあきいとをれをんなをよ
をりらいせをけさせいやうぬれに帳より
ゝゝくゝ侍ゝくゝさしげるゝこれ所い
ものとゝらいをりゝ所ゝゝこゝらゝ所い

こゝやゝとゝ侍ゝくゝゝ倉ゝるゝとゝゝゝゝ池ゝゝゝ
宮ゝゝ日ゝゝ三日ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝの侍ゝ車ゝ池せんゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ふりゝ仕ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
らゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しとゝいつちはこそさしたゝ（ゆ）ゝとゆりたるゆ
いくこうんはこゝゝ物語りさこゝ海まの結へいるの
ゆるゆゆゆ

新宰、実頼十九へし

世に新宰相殿とも申おはしけるを、
つねにいとしたのまれ給ひ、
てうれとさしてうれ給ひ、
よろこび給つかまつりはべんと申給ひ、
給よ、とれ給ひ、
てまつりまいりやあるせことにうこうれ給へ
れ給やうみ、あてにるまゆうり給へ給へ
しくおりはあやのうらわらのいとくねふることのひ
のをりとめくこあるれ給へ、おりもとあれ給へ、
ゝてまつり給へうられ給へうり、ふうきあ
ゝうにるゝひまへこりにいくそうこうるれ給へ

の給へれくこをりとえみくおりさゝもて、宰相殿
人ゝにそ物し給へれ給へうれ給へこと、
そうゝをるゝ人ゝうゝつくゝるゝまゝさまをに
やゝうれるやゝとの給へ、うゝあれにこをや
ま給へいやむゝとるれ人ゝうゝいゝらうゝ
てゝこるゝとみるゝこゝ給へれいゝとゝうし給へて
おりるゝをいゝるゝ給へんくのゝこゝのゝてゝくいあゝ
をゝうやゝむゝをゝうんゝと給へうゝにあゝう日
ゝうにいゝくゝうゝ人ゝうゝよゝいるゝやゝくゝるゝむあゝ
いゝうゝこゝゝいゝ給へむゝをゝいゝやゝとゝうゝそゝうゝにゝいを
しうゝを給へし給へうゝをゝうゝゝゝゝゝやゝゝし

世は新寒おりろともよおりていとめやもくれ
つゆのいろこのとしはのまとといろくせさせたり
てこうれとこうてこうなる物語ふしてなりなる
よくくく物つかなみはれいんなもいさるかやら
なよされたたれ物なるなかりまていさるた
てきつりまいるやあくまとにろこるれなる
れなくやうみてくあてにるまやさり物くなくく
しくおりれあやのうらわりのいとくねみさはい
のをりとのくこあるれうもくおりとるなかくえ
こそまつり物えうこれやさるうりまるきあく
さらにるくひまこりらいくそうさうるれを

の物くれくこをりとえみくおりさくもと寒れれ
人くにこそ物なり物れかくまるれるこをくれ
そうくをるるくらるつくまいくまとさるをに
やいうれるやこうとの物くるうれれいこをや
るる物くいやむこうるれくさりつくいくらるさら
てこうるこうるとみるこうる物りれいとうるくて
おりるるこをいうるるんくくのさこのてくいあろ
とくらやうむこうんくとれりとれにえれり日
ろいいくうりくらるよいるやうくくるむあま
いうこうこいえくこいるむをるやとこりそうにいを
しうるれしる物くるをつりるあやこうし

よひてや一本 よさてトス
紺本ニハいてトス

ろ見てくいそ人りろとまにたべてや
　　見ぬ世ゆめ月ろこと日れを世りひせはいるゆそ
ふてよこさてくゆやハ世りふてそねてゆてう
れて河をてろろやうみてくくうをそうふをハいれ
さめをハふてをれ地(ヒ)をとやりとあやしくハ
ちりよとるむろ紙ハ方ひかるあやし風
ゆてくそやハまハのみくをこく結ゆう河かいと
れてくくこのころつひこれくう物し結ハけくうう
れ世ハ(ロ)ひ(ハ)ろ(カ)ん(ウ)ろまるよハるよことうひう
よの結ハそれこれこのころハ御(ゆ)の世みひ河ろてりるみ
とはきこせ結つくハれ泥るやまりとそゆきうのや

ゆ結ゆまりハみゆむのれうこそハそこよふてく地(ち)集つ
とりふ人ふのハくゆ(ミウ)ハしろハ世月つりるを世ハ
しさふそくるやさせ結とるむゆ(ミウ)ハ(ゆフラフ)世ハひと
ゆ(ひイ)きハりゆ結ゆとゆまりれるれとゆりるとき
ゆとよハるりつかのれ方ハ地ゆん世ゆ(そこハ)ハ結へるゆを(コト)
るむ風んことるさ前くりろここせ結ひる前ひる
りハりのゆをりとりふ地ゆそ(ふイ)ぬとこれハつおりハ(ビイ)(ロ秋イ)
りくうあろ地也ゆりうハ結ハあるせ結つる
とてりよあろ前よハ世ゆこうよりふ(のイ)せ結とるん
うゆろ風つろ。のれ方ゆをとくゆりまへと結ゆるを
とゆきこ也。ふのれゆりくを(けそきハ)ゆりうをゆきとりぬるゆやまり

たうはいとり
一本どうちのぶつ
紙本月ノ非ナラン

姿人々に一本
四免〜トス
紺本同

さうしめんたちもあるこうりのしさまーこふるこ
ぬぬまをよんべくのいんしんとをとそんぬぬのつさ
しみちこそ義みをぬけるこうもぬぬとこうこ
くてわしぬつうりこうとぬけてりやとぬたり
よこうぬるものぬぬいえこぬかりこみてそいまこ
こみくぬこんこうりいかるこいぬかるこのこ
こぬとこうまをこをとここしぬこあこうまこ
姿んべくよこうこぬまこいぬかいみーや
うこをこといこてこうこみこくこみをこむこうこ
ぬやこんこんこんこうぬんこやこかこくこるこぬ
ぬ姿ぬまこうこいぬこんこうこぬけこぬこ

んべくこうこんこうこぬこうこぬこえぬりーぬ
てこいこくこみこいこくこみぬれいこぬこうこるこれ
ぬこをこみぬこうこいこくこみぬこうこるこれ
こんこいこんこいこれいこぬこうここうこ
こぬこんこんこけこくこここすいここじこけこーかん
わんぬこうこよこここぬこんこいこくこくこれこれい
ここよこれぬこうこるこくこぬこぬこぬこぬこ
ひよこここむこここぬこここここここここ
こここんぬこここここここここここ
ぬこりこくここここここここここ
こここここここここここここ

○紺本ニ繪詞六三ナシ

（ゼイ）ちじうれうそむけ　それとうつそ　問い
ぬこもの　ものしるとも　ものしの　物式　その　絵て　文
しりれ　文　のうん　ゆうぬ　やうよ　つま　いわ　やうた
ちうう　ちみて　ちう　絵へう　やう　やう　うあ　さ
らんわ　くらわ　（されは）　ん　くよ　せう　くち　うら
よ　問　ら　そ　ぬ　を　れ　う　ち　う　や　う　ま　て　地　を
（えん）ん　ら　れ　ま　ま　く　ら　れ　ま　わ　ち　こ　と　た　う　（めい）の
ち　う　や

（はい）ち　う　く　れ　の　（木い）ち　う　を　み　う　い　ち　こ　い　も　え
こ　ね　の　か　う　む　し　（い）を　と　の　ま　こ　う　く　う　そ　そ
ち　み　う　ま　う　く　て　い　え　て　そ　こ　の　絵　つ　ま　い　ゆ　く　う　絵

（葉）

てうくの絵ものうよ　やうちうえう　ぬてうさうみうようれ
しつやうまうう絵　（たぬは）ん　ちうくうれうそ　ぬう　（はん）
てぬうう

ミ心まのトよ風ちそやくうもえう本流
絵もうくうあ　ん　ぬ　ま　ま　ま

ねのうちよりさいりうせられて、御くんしゅ
やうよりてのまえに、はりかけさいもくをもつて
せ、而くしよりもの法師をもつてをるうち法
りをもつて、ゆれのうちんもかつてもとねいしらかりうち
ゆんやうゆんさるを見てつかまつり

ぶんじやうの文と、出羽うたうの
りの法師ぬしとぞ物やうむとらへ、この
用ゐつかふ物語法れいぞ、わもうてう
しよとのさうしにて物とやうて、まうてうふ
さんへのくらべいらいとうくみしつ法つろよそて法
矢立、新中納言知盛卿、うふ法れたやうふさうを
つ法ろみしやうぶんそそうち法しつたさうろう
たしとの法きれたうて、まへいかとくえうふるれま
や、わさうをのみつしたていあやうらせしを法い
むしよしれもしくうまふそしかりんもさをり
きれいこそうりあつさやりまうれとへくのうを

つをそ法くいまうしうくうふらせま
しや、女文のかしむくつけ、くうの法へをいてり
らよるうむしとやりんいとこはうゆうやうさそ法
らんとうふ物紙をつまふてもはるゆくしや
との法へいうくの法をやうんあうへのやうす
とそをうしうて法ほとうをれぬあや
ようさもやをつをせやうまうるむしとれた法
あうさ法よやうしたるにくをくうす法ん
わいとあんとんとの法へいみしくやうら法うは
ほうくよ、文ねいうをうを法くいまのわくをうすしとを
まうの法れを法ちうるやゆをうんとうるむ物

霊験

律師のもとにせさせたまへ

唯社

護身

真言院

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○繪詞紙本ニアリ

つぶれ車はそうらいしてはをんいとはやくてさうら
ぶんむさうしまいらさうらへいらてやれりしにおつてそ
ものあり(ロ)よりくるる物(ロ)ぬるをいつまのさいはら
かつてふつきうあるをとゝ(ロ)ゆいやうらうらうらやし
こうるよりもとゝ(ロ)ゆうれつまて。ゆうつくるし
してやうくてきあるうさるぶつぶーつやこしいそう
てまをうさ猫とうるをうれうれうるをまうすたらぬ。
うと人をいうまうんをうをうんをうをうをうをよ。律師う
るを給へつをくりをはゆ猫ゆれうりてをれと
よ。猫ゆりしうをせくぶりいれ給。うれうをのう
さ人をやうくるゆれーうくうくうくて給律

おき命の一本まの〳〵のトス
紙本同

つやうつり給ふは。きるくそくのうれりのやうなる
〳〵いうちれるをよまの孫をゝだ(ロ)をづうさつまと
てをむの給へいうちりつをるをみうゆうんをうて
(ロ)ゆいうくうをやうむ。ものくはあるやうるれ
うれをそれよりて作うんあるよやいうをさ給へ
もうるうるむ。をくをうをの文めり給つむ。をそ
をうり給へ。ゆうをうとをうをを作くはいくを給
なうとをうてをへいふくをれうあるよをいてをうる
へをうるあれと。ゆうをうさつうるへをれいうくよ
を。さ(ロ)ゆうやうくはをゆをくれよはとあてそ
うくゆををくくてんとの給へて。をうり給あ

仲忠

師そのやのしそつ（乙し）ゝゝにくゝつまつ
ゝをゝかうらつぶ（ひと）ゝ光くたゝれものゝ
をゝゝゝゝくゝゝゝゝ

きの給ふるむいとゆそうかくいとう
みけあくこれらろいあくようなん后宮の
のちえもうるむるやさせ給くぶかとれと
きろありをくるむるとうて給たるものの
けりしりあふさうをいらをゆそうやうく
のうるおうつきさせむとて　ろうせくいれを
らせ給ひくてきくのうり給へとき　東宮の
よりれひのあうぎとて　御のうたなを
うてさうり給くてあよ内侍のうけ　給へ
うくうあうあくあうきるくあうきんうれいるよ
のうをあくあうれんぶをはくぶ　ろうせなり

給ふねぶをくいさうれいとまるをくうれい
みくくくくさ給りくきとれ給うりさうり
給へぶもうもうをあるうるへいさうんし
てうそうりさうれどおそうをくよさうそと
りをは文をよりりもうをいとうりこい
ろあへこよりそ　給へいあをさうを
やるをひりりあ給へうりりいぶりさうり給
うをいうやををくをんをうりあをう
りりをくをくをへるれをまりくいとりくり
あり月よりりてこ乃世中れてくうを海うを海
りうれうをうさうりう給へうりをこれれうに

いふと　一本ふくトシ　一本ふかくトス　紺本同

琴ノ

春日

仏

神

木

[illegible]
[illegible]
[illegible]

○紺本和ヨリ あしトル
ほものヲほ和ヨリ

みたまひて
一本ニ たひまて トセルハ非ナラン
紺本ニ

僧

帯

帯

故千

春日

永正頼

内宴

○繪詞九条言紺本ニナシ
右大ト正頼ニ注アリヤ

今九九 七十一市ニサヨリ
左大臣之但巻ノ頃ノタ
右オトヽ正頼ニ本文
モシ左ノゴカイカ巻
頃ノヲカ可考

正俗考 故式部ノ書ニ
大和物ヲ
ハ下平仲
清ヘ

繪付

律師加持

右大臣正頼

繪付

四一

○紺本ハ[illegible]トル
[illegible]トス

みたまひて
一本ニ[illegible]トセルハ非ナリ
紺本ニ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

○繪詞ハ[illegible]
右大ト正頼モ[illegible]アリヤ
今ノ九九 七十一帖ニサヨリ
左大臣ノ但巻ノ次ノタ
ルカ可考

[illegible]
[illegible]
[illegible]

左ノオトヽ第正ニリハナキヿヽ
サレハ右ノ表ノ右大臣ハ左大臣ノ
コトナルヿ明ケクコヽノ右ナルヿ
モ又シルシ

さうらふ（てイ）ものとうちのたまはせ
をこなはるとはしてうはかの世をとまてをこ
こちらの律師なとめされきるよりはとうて
なむことをこうとはかれんはりはいかてはこと
ものをはなはんなるとして地さいてんとなむをくへをはか
てうりやうくをくへをはかうくをくへ
はしはよはれはうてうてうちをさうり
はねをたのはうくねをとひさうさうり
ちんざはにちをゆうちんをうちくをうり
つをさうくはをいとあうくはりてをこと
をきうるひしのをさうるとも（とイ）をこうとて

天明元五十一月廿八午三ヨリ校合月九九夜丑一刻

田中道麿

天明元丑十一月廿八午三ヨリ校合ス廿九夜丑一ツ

田中道麿